

# 仙台市 食育推進計画〔第3期〕 中間案 概要版

資料3

## 未来へつなげる食育

～私たちの未来、そして次世代の子どもたちの未来をよりよいものにして  
いくため、食育を推進していきます～



# 第1章 基本的事項

## 1 計画の趣旨

- 食は健康で充実した生活の基盤
- 食育基本法『「食育」は、生きる上での基本であり、知育徳育及び体育の基礎となるべきものの』
- 心身の健康の増進と豊かな人間形成を目指すとともに、社会全体で連携協働して持続可能な食糧システムを構築する
- 第2期計画の最終評価や国の第4次食育基本計画（令和3年4月策定）の動向も踏まえ策定

## 2 計画の位置付け

- 「食育基本法」に基づく市町村食育推進計画
- 「地域資源を活用した農林漁業者等による新事業の創出等及び地域の農林水産物の利用促進に関する法律（六次産業化・地産地消法）」の「地域の農林水産物の利用促進についての計画（促進計画）」
- 仙台市基本計画、「仙台市いきいき市民健康プラン」等関連計画等と連携を図る。

## 3 計画期間

- 令和6年度から令和12年度

## 第2章 現状と課題

### 1 食育を取り巻く本市の現状

- 将来人口推計→2028年をピークに人口減少、高齢化率は上昇し続ける
- 世帯数と一世帯当たり人員→世帯数は増加傾向、一世帯あたり人員は減少傾向で単独世帯が増加

### 2 第2期計画の評価と課題

#### 課題

朝食を毎日食べる人は増加せず、特に若い世代の朝食摂取率が低い  
主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている人は減少  
郷土料理等を食べない人の割合は若い世代ほど高い  
その他地産地消、食品ロス削減、食の安全性確保の視点



市民一人ひとりが自ら食育に取り組むことを基本とし  
食に関わるさまざまな機関が連携・協働し取り組む  
デジタル化とSDGsの視点を踏まえる

### <コンセプト> 未来へつなげる食育

#### <基本目標>

市民一人ひとりが、食について多様な視点で関心を持ちながら、毎日の食事を味わい楽しむことを通して、よりよい未来を次世代へつなぎます。

#### <推進方針>

- ◆多様なライフスタイルへ対応した、生涯にわたる切れ目のない食育の推進
- ◆食育推進ロゴマークの活用をはじめとする、関係機関・関係部局におけるより一体的な取り組み
- ◆「新たな日常」やデジタル化など、時代に対応した食育の推進

# 第4章 計画の目指す姿

## 1 目指す姿

### 推進の柱Ⅰ 食を通した心身の健康づくりを推進します

#### 目指す姿：食を通した心身の健康づくりができる

1. 朝食を毎日食べている	<ul style="list-style-type: none"><li>•生活リズムを整え、毎日朝食を食べている</li><li>•朝食が健全な食習慣の軸となることを理解している</li></ul>
2. 栄養バランスのよい食事 をしている	<ul style="list-style-type: none"><li>•1日3食、規則正しい食事をとっている</li><li>•主食、主菜、副菜が揃った食事をとっている</li><li>•適塩を心掛けている</li><li>•適切な栄養量を摂取している</li><li>•栄養成分表示を確認し活用している</li></ul>
3. 健康な歯と口を維持し 食事ができる	<ul style="list-style-type: none"><li>•歯と口のケアについて学び、実践している</li><li>•甘味飲料や甘味食品の習慣的な飲食を控えている</li><li>•よく噛むことの大切さを知り、口の機能に応じた食事を工夫している</li><li>•食事の時の姿勢の大切さを理解している</li></ul>
4. 安全な食生活について知 識を持ち、自ら判断している	<ul style="list-style-type: none"><li>•食の安全安心の大切さを理解している</li><li>•食中毒の危険性を知り、予防している</li><li>•食品・食材を選ぶ際は、保存方法、アレルギー物質等の食品表示を確認している</li></ul>
5. その他全体に係ること	<ul style="list-style-type: none"><li>•健康情報にアンテナを張り、アップデートしている</li><li>•食材のおいしさを感じ、食事を楽しめている</li></ul>

## 推進の柱 2

食文化の理解を深め、次世代へ伝える取り組みを推進します

目指す姿：食文化を理解し、次世代へ伝えられる

1. 地元食材や郷土料理を食事に活用している	<ul style="list-style-type: none"><li>• 仙台市・宮城県で生産している食材を知り、家庭や給食で積極的に利用している</li><li>• 地元食材の生産者について関心を持つ</li><li>• 地元特産物や郷土料理について知り、自ら調理してみる</li><li>• 食卓に取り入れる等し、次世代へつなげる</li></ul>
2. 和食文化について理解し、食べる習慣がある	<ul style="list-style-type: none"><li>• 伝統的な日本の食文化である稲作、米食について知り、積極的に活用している</li><li>• 和食の歴史や文化について知り、マナー等を身につけている</li><li>• 日々の食事に和食を取り入れ、次世代へつなげる</li></ul>
3. その他全体に係ること	<ul style="list-style-type: none"><li>• 季節の行事に関心を持っている</li><li>• 食材のおいしさを感じ、食事を楽しめている</li></ul>

## 推進の柱3

### 環境保全・脱炭素を意識した食生活を推進します

目指す姿：食行動を通して環境負荷を減らすことができる

1. 地元食材や旬の食材を積極的に利用している	<ul style="list-style-type: none"><li>•地産地消・旬産旬消が生産・輸送・保存にかかるCO2削減につながることを知っている</li><li>•とれたての地元食材や旬の食材を積極的に利用する</li></ul>
2. 食品ロスの削減に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"><li>•食材は必要な分だけ購入する</li><li>•料理は食べきれる量を作り、残さず食べる</li><li>•フードドライブ等により未利用食品を有効活用する</li></ul>
3. 環境負荷の小さい食品について知っている	<ul style="list-style-type: none"><li>•食品購入の際、環境にやさしい食品に表示されているエコラベルを確認する</li><li>•農薬・化学肥料の使用が少ない食品に関心を持っている</li></ul>
4. その他全体に係ること	<ul style="list-style-type: none"><li>•SDGsについて知識を持ち、自ら取り組んでいる</li><li>•食材のおいしさを感じ、食事を楽しめている</li></ul>

## 2 目標値（新たに設定した目標値を抜粋）

指標		ベースライン	目標値
肥満傾向にある子どもの減少	3歳児	6.0%	4%
	小学5年生男子	16.0%	減少
	小学5年生女子	10.0%	減少
3歳児でむし歯のない幼児の増加		90.4%	95%
50歳以上で咀嚼良好な人の増加		70.2%	80%
食環境整備事業登録店舗数の増加		—	45店舗
食品の安全性に関する知識を持つ人の増加		58.9%	65%
保育所等における和食に関する取り組みの回数の増加		月6回	月8回
産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選んでいる人の増加		64.2%	70%
環境に配慮した農林推進物・食品を選んでいる人の割合		45.7%	55%

### 食育推進会議

食育基本法に基づき、食育推進を目的に食に関わる主体（保育・教育関係者、保健・医療関係者、食品関連事業者、市民活動団体、市民、行政）で構成している。

計画の策定や施策に関する審議を行うほか、計画の進捗状況の把握・評価を行う。

関係者相互間で意見交換しながら協議・連携し、市民運動として食育を推進する。

仙台市食育推進会議の構成団体と仙台市関係部局が連携・協働し食育推進計画を推進する